

# 2021年の国際石炭情勢の展望と課題

---

一般財団法人日本エネルギー経済研究所

化石エネルギー・国際協力ユニット 石炭グループ

伊藤 葉子

- ✓ 脱炭素の潮流に加え、COVID-19感染拡大は、世界の石炭消費・生産にマイナス影響。他方、2019年まではアジア地域の石炭消費は3年連続して増加、石炭貿易も過去最大を更新。
- ✓ 短期的には、石炭市場の中心であるアジア地域における現状の需給構造は維持され、電力・製鉄の石炭需要の回復により、2021年の世界の石炭消費及び石炭輸入は、インド、ASEAN等を中心に増加が見込まれる。
- ✓ 石炭スポット価格\*は、2020年は一般炭・原料炭ともに大きく下落したが、秋以降は回復も。2021年は一般炭（足元80ドル/トン台前半）は70ドル\*\*/トン台で推移（季節要因で変動）、原料炭（足元100ドル/トン台前半）は130～140ドル/トン台に回復。

\* 一般炭は豪州ニューキャッスル港出しFOB価格、原料炭は豪州高品位強粘結炭FOB価格

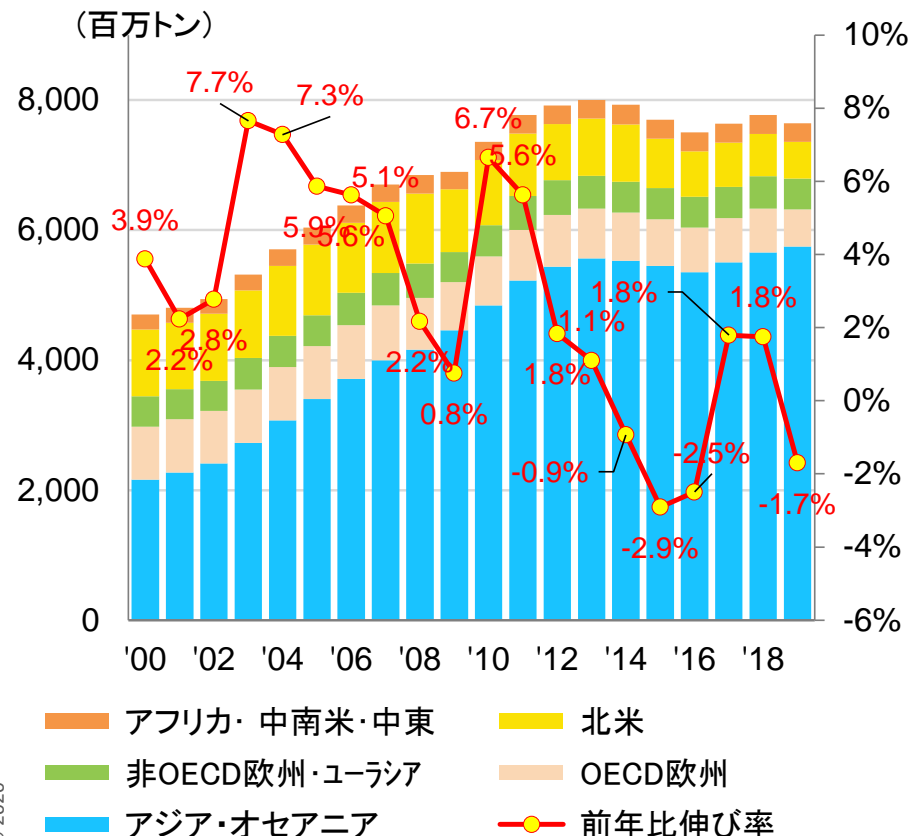
\*\* CIF価格は平均92ドル/トン、熱量換算で1.6セント/千kcal。

同年のLNG輸入CIF価格予想（7～7.3ドル/百万Btu）は2.8～2.9セント/千kcal。

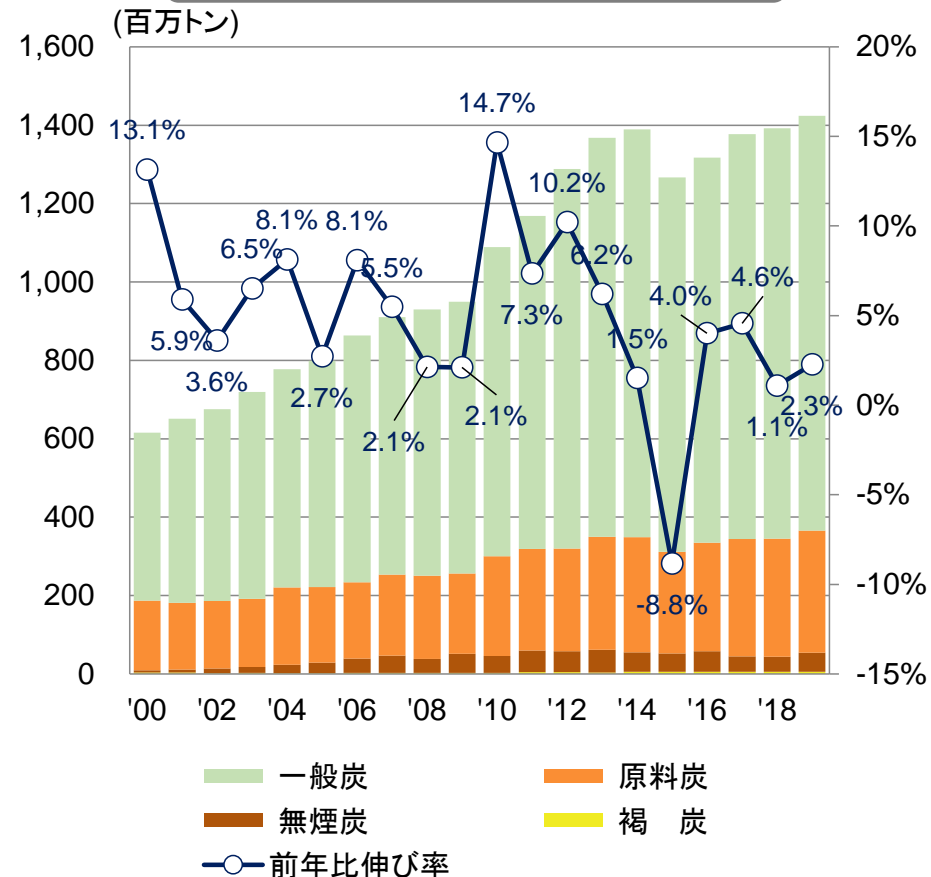
# 世界の石炭消費・貿易動向

- 2019年の石炭消費は欧州・北米で大幅減、アジア地域（世界シェア75%、中国50%、インド13%）では**3年連続増加**
- 石炭貿易量は2016年以降増加、2019年は**過去最大の14億トン超**

## 地域別の石炭消費量の推移



## 炭種別の石炭貿易量の推移

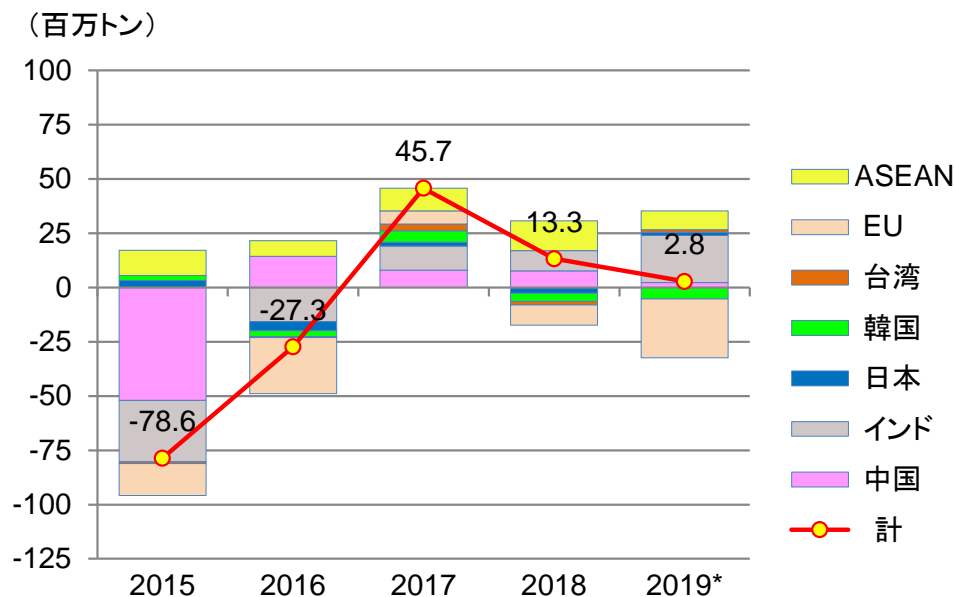


注：貿易量は輸入量、2019年は暫定値 出所：IEA, World Energy Statistics and Balances 2020 database

# 一般炭：主要国・地域の輸入動向

- 中国：過去3年間はゆるやかに増加、2020年（1-10月期）も**微増**
- インド：2019年は約2,200万トン的大幅増など増加基調だったが、2020年（1-9月期）は-19.3%と大きく**減少**
- 日本：近年はほぼ横ばいで推移しているが、2020年（1-10月期）は3年連続の**減少**
- ASEAN：2016年以降、毎年1,000万トン超**増加**

## 一般炭輸入量の前年比増減



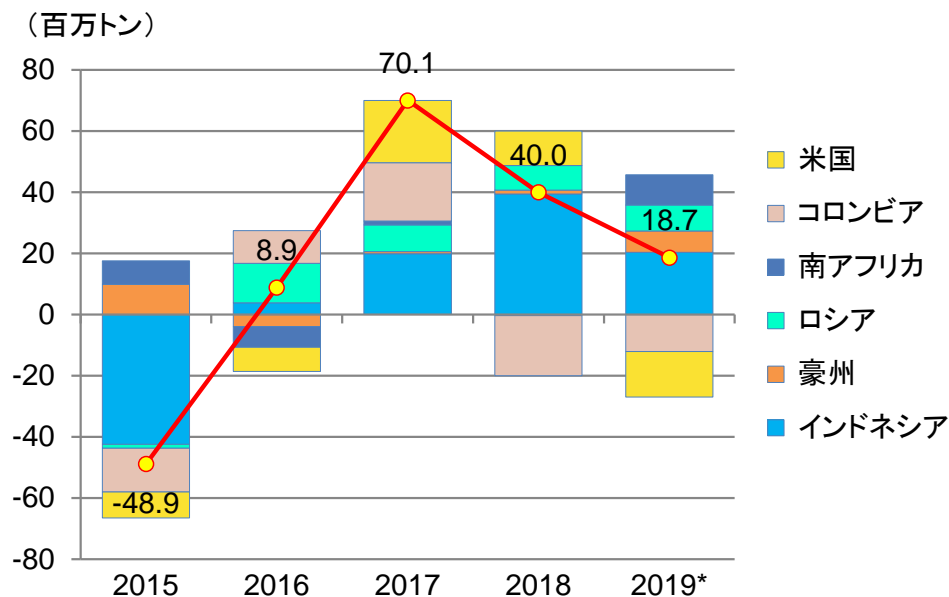
注：2019年は暫定値

出所：IEA, World Energy Statistics and Balances 2020 database、  
中国は中国貿易統計

# 一般炭：主要国の輸出動向

- 豪州：2015年以降2億トン台で推移、2020年（1-10月期）は前年同期比**減少**
- インドネシア：一時減少が目立っていたが、2016年以降は増加、2020年（1-7月期）は前年同期比**減少**（-8.2%）
- ロシア：近年漸増、2020年（1-7月期）は前年同期比**減少**（-10.8%）
- コロンビア：2016,17年と増加したが、以後**減少**

## 一般炭輸出量の前年比増減



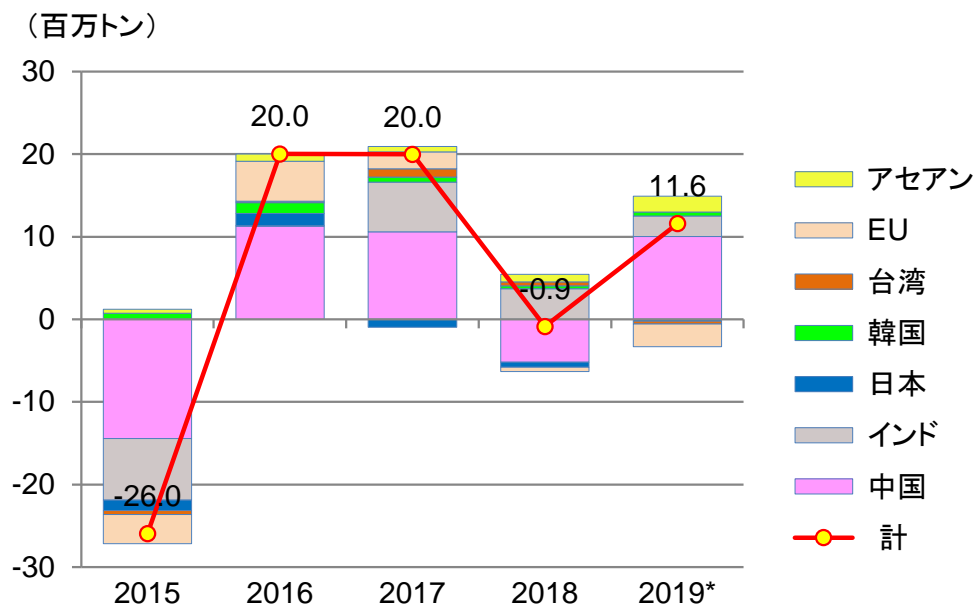
注： 2019年は暫定値

出所： IEA, World Energy Statistics and Balances 2020 database

# 原料炭：主要国・地域の輸入動向

- 中国：2018年に減少、2019年に持ち直した後、2020年（1-10月期）は**微減**
- インド：近年は増加が続いていたが、2020年（1-9月期）は-15%と大きく**減少**
- 日本・韓国：近年は横ばいで推移、2020年（1-10月期）は**減少**

## 原料炭輸入量の前年比増減



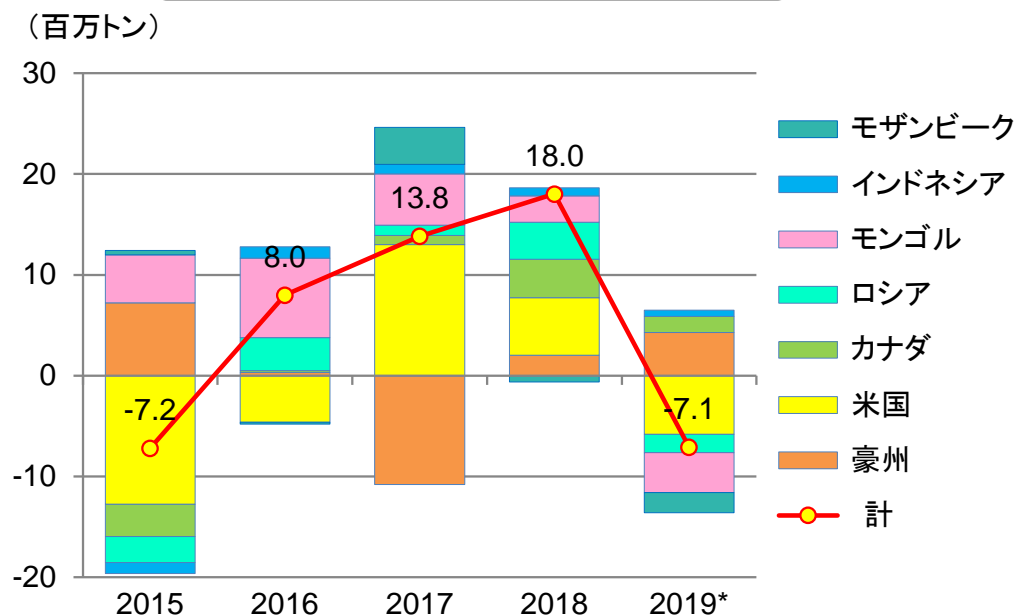
注： 2019年は暫定値

出所： IEA, World Energy Statistics and Balances 2020 database

# 原料炭：主要国の輸出動向

- 豪州：2017年に大きく減少、その後回復したが、2020年（1-10月期）は**減少**（-7.2%）
- 米国、カナダ、ロシア：2020年はいずれも**減少**が目立つ（米国・カナダは1-10月期、ロシアは1-7月期）

## 原料炭輸出量の前年比増減



注： 2019年は暫定値

出所： IEA, World Energy Statistics and Balances 2020 database

# 2021年の石炭市場

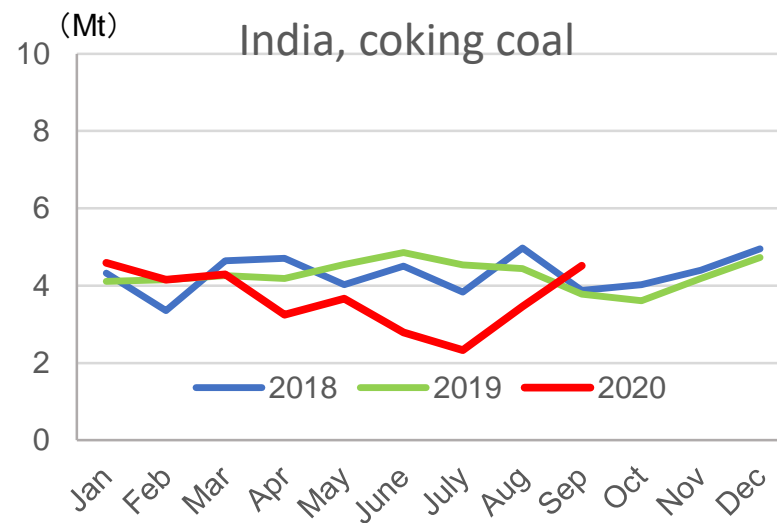
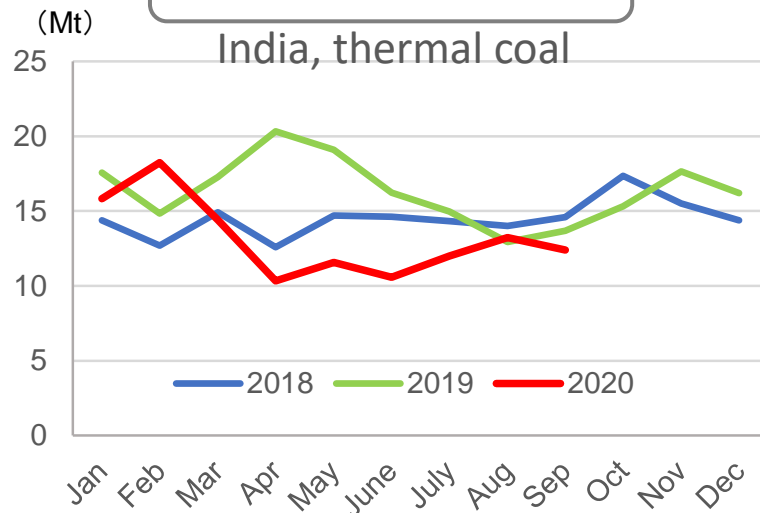
## ② その他の輸入国

- **インド**：国内資源の利用重視、生産目標10億トン（コロナ禍で低下）、輸入はこれまで安定的に推移、2020年下期以降は回復も。景況改善により輸入需要も回復。 ➡
- **ASEAN**：2019年にマレーシア、ベトナムで石炭火力発電の新設設備運開、今後の本格運転や運開設備の追加で需要拡大。 ➡

## ③ 供給サイド

- 豪州：大手炭鉱で生産調整 ➡
- ロシア：インフラ制約 ➡
- インドネシア：従来は生産・輸出を制限、コロナ禍の内需低迷で輸出意欲が高い ➡
- 南ア・コロンビアは主力市場の減衰や感染拡大、ストライキ等で生産が不安定化 ⚡

### インドの月次石炭輸入



出所：インド貿易統計



# 2021年の石炭価格

- 石炭市場の中心であるアジア地域における現状の需給構造は、短期的には大きく変容せず、電力・製鉄の需要回復により、インド、ASEAN等を中心に石炭需要の増加が見込まれる
- 一般炭スポット価格（豪州ニューカッスル港出しFOB価格）：  
2021年は、季節要因で変動するが70ドル/トン台で推移すると予想
- 原料炭スポット価格（豪州高品位強粘結炭FOB価格）：  
2021年は、130～140ドル/トン台で推移すると予想

## 一般炭・原料炭の年平均スポット価格

	2019年平均 (実績)	2020年 1-11月平均 (実績)	2020年平均 (見込み)	2021年平均 (予想)
一般炭スポット価格	76.91	57.44	59	74
原料炭スポット価格	175.95	122.16	121	133